

株式取引の呼値適正化(単位引き下げ)について

(2014年7月時点)

東証では、**売買コストの低下、流動性の向上、取引量の増加を狙い**、**上場株式の呼値単位の引き下げ**が段階的に行われます。

	実施時期	内容	対象銘柄
フェーズⅠ	2014年 1月14日	株価3,000円以上の銘柄の内、右記対象銘柄の呼値単位を以下の様に引き下げ ・呼値3,000超～5,000円以下:5円→1円 ・呼値5,000超～10,000円以下:10円→1円 ・呼値10,000超～30,000円以下:10円→5円 ・呼値30,000超～50,000円以下:50円→5円 ・ ・ など	TOPIX100構成銘柄の内、3,000円を超える銘柄
フェーズⅡ	2014年 7月22日	株価5,000円以下の銘柄の内、右記対象銘柄の呼値単位を以下の様に引き下げ ・呼値1,000円以下:1円→0.1円 ・呼値1,000超～3,000円以下:1円→0.5円 ・呼値3,000超～5,000円以下:1円→0.5円	TOPIX100構成銘柄
フェーズⅢ	未定(2015年7月頃)	フェーズⅠ及びⅡにおける売買状況や執行コストへの影響等を踏まえ、包括的な呼値の単位の適正化を行う	適用される銘柄は、流動性の高い銘柄に限定される予定(東証コメント)

新たな呼値の刻み規則公表
(2014/12)

リテール証券会社などの懸念

(“呼値の単位の段階的な適正化について”のパブコメ2013年5月14日より)

- ・HFT取引優先ではないのか
- ・銘柄によっては、流動性が低下する懸念
- ・個人が板情報を利用しにくくなる
など



日本株取引制度改革の概要

(2014年7月時点)

取引機能向上

更なる高速化や処理能力向上などを目標して、東証の取引システムarrowheadのリニューアルを2015年9月24日に予定
(新システムの制度要綱は2015年初に公表予定)

呼値の適正化

- 売買コストの低下・流動性向上を目指して2015年7月頃までにフェーズⅢ対応予定

売買単位の統一

- 最終的に100株単位を目指す。
- 一部指定や市場変更などを行う場合には、売買単位が100株単位へ(2014年7月)

課題として貸株市場の整備

- 新たな空売り需要に応える為の貸株市場は整備されているか
- 貸株取引のに関する情報を誰が何処まで共有すべきか

アップティック・ルールの原則廃止
(2013年11月)

夜間取引

- 現在、現物市場の取引時間拡大に向けた研究会で議論中
- 試案として夕方取引(15時30分~17時)と夜間取引(21時~23時)にコアタイム設定
- 実施の為の論点として以下
 - ✓ 価格形成への影響
 - ✓ 適時開示への対応
 - ✓ 機関投資家及び決済実務等に関するもの
 - ✓ 証券会社の対応
 - ✓ 別市場による取引機会の提供